

## 2学期が終了 平成30年(2018年)が終了

今年も残すところあと6日となりました。2学期、計画した教育活動のすべてが順調に実施することができました。これも保護者の皆様のお陰と感謝いたします。

今年度も狭間中では「生活アンケート」や補充学習などを実施し、「安全で安心した学校生活」と「基礎学力の向上」に力点を置いて取り組んできました。

また、学年・学校行事でも、生徒たちが自主的・主体的に活動できる機会と場を設けてきましたが、生徒たちはその都度、教師の予想を超える活躍を見せ、地域活動や校外活動においても、ほめていただくことが多くありました。どこに出しても恥ずかしくない集団に成長していると思っています。

3学期も、更に生徒たちの活躍が見られる学期になるよう取り組んでいきますので今後も本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

冬休みは、子どもたちにとって「家族」を実感できる期間でもあります。特に年末年始は、家族で過ごす時間も増えると思います。生徒に配布しました「冬休みのしおり」を熟読していただき、充実した冬休みになるようご家庭でもご指導下さい。

今年度の全国学力・学習状況調査の質問紙の回答から、本校の生徒は「読書の習慣が身に付いている」「地域の行事に参加している」「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている」「家の人と将来のことについて話すことがある」等の数値が低いことがわかっています。これは、長期の休みに取り組んでほしい課題でもあります。

## 個人懇談、お世話になりました(12/14-20)

保護者の皆さまには、ご多用の中お世話になりました。懇談は、2学期の学校生活を振り返り、三者で確認したことを次に活かしてこそ意味があります。冬休みのゆとりのある時に家族でふれあい、家族との対話を通してそれぞれの生徒が自らを理解し、将来に希望を持つ機会にしたいと考えています。将来は「今」の積み重ねですから、「今、何をすべきか」を自分自身で整理して冬休みに臨んでほしいと思っています。

3年生で進路相談が不十分と思われる生徒には、継続して学級担任が面談していきます。生徒自身が納得するまで話し合い、それぞれの生徒が希望を持って受験できるように取り組んでいきますので、ご協力お願いいたします。

## —新年を迎えるにあたって—

新年を迎えると誰もがその年の幸せを願い、希望を持って将来の可能性に期待します。しかし、これから先がどうなるのかは誰もわかりません。今年一年を振り返っても予想もしなかった事件や事故、災害が起きています。

一休宗純禅師は、正月がめでたいという人々に対し、「門松は、冥土の旅の一里塚、めでたくもあり、めでたくもなし(狂雲集)」という有名な句を詠みました。

縁起でもないと思うかも知れませんが、昔は“数え年”で年齢を数えていましたので、正月になると誰もが1つ年をとります。死に一步近づくの、めでたいという人の気持ちが不思議であると、一休さんは皮肉っているのです。

どんな人でも平等に歳をとり、生まれた時からすでに死ぬことが決まっています。しかし、幸運にも与えられた人生をいかに生きるかは自分の意志で決められるのです。

新年を迎え歳を重ねるということは、年を取ること、生きること、死ぬことの意味をしっかりと考える時でもあるのです。



## —逆境を生かす—

人類の学名である「ホモ・サピエンス」は、「知恵のある人」というラテン語です。人類は地球上に君臨して文明を発展させ、今やその活動は宇宙にまで及んでいます。ゲームやネット上には、現実とは別の「仮想空間」まで創り出しました。

人類の知恵の源泉は、大きく発達した脳だとされています。脳科学者の茂木健一郎さんは、「人の脳は、逆境の中でも欠点を長所に変えて乗り越えようとする力を秘めている」と言っています。すべての生物が逆境を克服することで進化してきたように私たちもまた逆境によって強くなれるのです。

カリフォルニアの研究者たちが、アメーバの育つ条件を調べる実験をした。第1のタンクには、水温や水位などの成長に必要な条件を完璧に整えた。一方、第2のタンクに入れられたアメーバは、常に変化にさらされ、暑さ寒さの極限に置かれた。

さて、どちらのタンクのアメーバが長生きしたか？

驚いたことに、早死にしたのは、第1のタンクのアメーバだった。

研究者たちは、次のように結論づけた。

あまりに居心地よい環境にしていると、よどみや腐敗が生じる。一方、努力を強いられたり、周囲になじむことを余儀なくされることは、成長を促進する。

\*『新自分を磨く方法』 スティービー・クリオ・ダービック著・千場弓子訳 より